

## 個体数調整実施状況

### 1. 2007 年度の捕獲目標頭数

緊急対策地区の目標生息密度を早期（2～3年）に約10頭/km<sup>2</sup>に減少させることを目標とする。その場合シミュレーションの結果により、本年度の捕獲目標頭数は、70頭から95頭となる。

### 2. ドライブウェイ開放時期

#### (1) 作業状況

第一回作業：2007年6月19日～6月25日	7日間
第二回作業：2007年8月6日～8月10日	5日間
第三回作業：2007年9月28日～10月4日	7日間

#### (2) 捕獲状況

表 2 平成 19 年度（2007）の捕獲状況

	麻酔銃		アルパインキ ャプチャー		性別計		合計	捕獲 効率 (頭/ 日)
	オス	メス	オス	メス	オス	メス		
第一回	1	7	1	1	2	8	10	1.43
第二回	0	4	0	1	0	5	5	1.00
第三回	0	2	0	0	0	2	2	0.28
計	1	13	1	2	2	15	17	0.89

表 3 平成 14 年度以降の捕獲状況

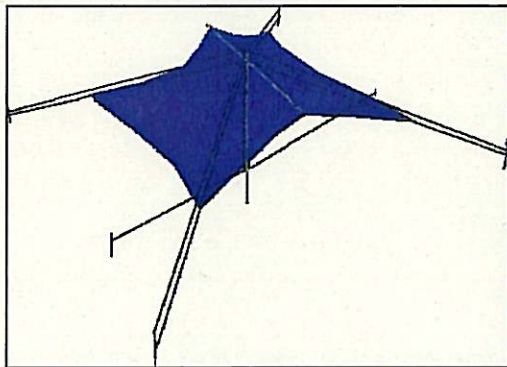
	麻酔銃		アルパインキ ャプチャー		BOXトラップ		合計	捕獲 効率 (頭/ 日)
	オス	メス	オス	メス	オス	メス		
平成 14 年度 (2002)	8	10	2	5	-	-	25	0.71
平成 15 年度 (2003)	11	24	1	9	-	-	45	1.25
平成 16 年度 (2004)	11	23	8	6	-	-	48	0.75
平成 17 年度 (2005)	2	18	1	1	1	1	24	0.48
平成 18 年度 (2006)	4	12	4	5	0	0	25	0.43
計	36	87	16	26	1	1	167	0.69

表 4 捕獲手法別の捕獲効率

	麻酔銃	アルパインキャプチャー	BOXトラップ
平成14年度 (2002)	0.51	0.20	-
平成15年度 (2003)	0.97	0.28	-
平成16年度 (2004)	0.53	0.22	-
平成17年度 (2005)	0.40	0.04	0.04
平成18年度 (2006)	0.28	0.16	0.00
計	0.51	0.17	0.01

(3) 新規手法開発

今後、警戒心の上昇等により捕獲効率が低下することが予想されるため、順次、新規捕獲手法を開発しておく必要がある。また、捕獲個体に過度のストレスを与えない生け捕りが可能と判断できれば、西大台におけるGPS個体の捕獲に適用する予定である。



ドロップネット模式図



ドロップネット

表 5 個体数調整スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
麻酔銃(捕殺)	←————→										
アルパインキャプチャー	←————→						7泊8日5回程度				
新規手法開発		←————→					各同時実施			*1	
装薬銃						←→ 2~3日程度		*2			

\*1: 自然環境研究センター実施

\*2: 地元猟友会実施